

1. 体制

事務7名（企画・総務・人事・広報・経理・購買・施設・設備管理）に清掃スタッフ7名・レストランスタッフ3名の17名体制で臨んだ。

2. 職員数推移

職種	2013年 3月末	2014年 3月末	2015年 3月末	2016年 3月末	2017年 3月末	2018年 3月末	2019年 3月末	2020年 3月末	2021年 3月末	2022年 3月末
医師	13	12	13	12	11	12	12	11	11	11
看護師・准看	81	83	85	88	91	90	92	93	91	88
看護助手	20	22	23	22	21	21	24	23	25	26
薬剤師	5	6	6	6	6	7	5	7	7	7
臨床検査技師	8	10	9	10	10	11	11	10	10	9
放射線技師	5	6	7	6	7	6	6	6	6	6
理学療法士	14	17	17	18	19	20	20	20	21	20
作業療法士	13	15	17	19	19	18	20	20	20	20
言語聴覚士	4	5	5	6	6	6	6	5	5	5
介護福祉士	0	0	0	0	1	2	2	2	2	2
管理栄養士	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4
MSW	3	3	3	4	4	4	4	4	4	3
事務員	19	18	28	26	26	29	28	29	28	30
技能員	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
調理員	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
介護支援相談員	0	1	1	1	1	1	1	1	1	2
病棟クレーン	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3
清掃員	0	1	7	7	7	7	7	7	7	7
合計	189	203	226	230	234	240	245	247	250	248

※医師は当院所属で熊本病院への派遣医師、熊本病院からの派遣常勤医師含む

※委託職員除く ※ME(臨床工学技師)は熊本病院からの派遣

3. 2021年度採用状況（2022年4月1日採用）

職種	受験者数	採用数
看護師	8	6
言語聴覚士	1	1

※受験者数は書類選考後の人数

4. 階層別研修会

研修会名	開催日	対象	目的
新入職員 研修会	4月1日(木) 2日(金)	新入職員 7人	医療人、済生会職員としての基本的事項を身につける
主任・係長研修会	11月20日(土)	主任・係長 24人	病院・自部署の課題を把握し、その解決に向けた具体的取組みを検討する
幹部・リーダー研修	12月4日(土)	幹部・リーダー 25人	課題共有と将来構想を踏まえた中期事業計画の骨格をつくる

※2年目フォロー研修はコロナ渦のため中止

5. 2021年度事業報告

基本方針を「連帯とプロ意識で業務変革へ取り組み、環境変化に順応する」。Keywordを「変進」とし、ITの有効利用と業務プロセスの見直し、病床機能再編、with コロナ対応等に取り組んだ1年であった。

経営面においては、入院・外来患者数ともに前年度を上回り、補助金を除いた医業収益は対前年比では約1.6億円の増収となった。補助金については、空床補償などコロナ関連や、例年通り自治体からの交付税も支給されたため、最終的な当期利益は対前年比で約33百万円増加し過去最高となった。

6. 2021年度活動報告

(1) 主なコロナ対応（時系列）

①住民、職員への2・3回目ワクチン接種を実施。住民接種は701人に実施。

②1階コロナ専用病床12床の稼働状況（延入院患者数/12床×各月日数）

4月	7/360（稼働率0.02%）
5月	185/372（稼働率49.7%）
6月	47/360（稼働率13.1%）
7月	34/372（稼働率 9.1%）
8月	329/372（稼働率88.4%）
9月	99/360（稼働率27.5%）
10月	0/372（稼働率 0%）
11月	0/372（稼働率 0%）
12月	0/372（稼働率 0%）
1月	117/372（稼働率31.4%）
2月	233/336（稼働率69.3%）
3月	164/372（稼働率44.1%）

③院内感染の発生

3月に入り、4階病棟入院患者に陽性者が発生。その後病棟勤務職員および2階、3階病棟入院患者も発生し、14名の患者と7名の職員に感染が確認されたため、病棟閉鎖と入院患者および職員の検査を頻回に実施。3月30日に無事収束することができた。

(2) ITと各種ツール活用による業務効率化

①AI問診を導入し、事務が支援を行うことにより医師、看護師の業務負担軽減につながった。また医師は患者と向き合う時間が増え、事前質問の質・量の平準化にもつながった。

②済生会熊本病院と当院とで連携し、オンラインを活用したPERIO DXがスタートした。頸動脈内膜剥離術の患者を対象に手術説明、入院前支援をオンラインで当院で、手術を済生会熊本病院で行い、患者の済生会熊本病院までの移動負担軽減につながった。

③その他IT化に関して、情報伝達ツール「LINE WORKS」、代表電話の自動音声案内を導入した。

(3) 地域包括ケア病床拡大による病床再編

将来病院機能を急性期機能から亜急性期・回復期機能へ移行していくための一環として病床再編を4月に行った。一般病床43床→27床、地域包括ケア病床45床→61床に変更した。病床再編により入院収益は2.9%増加した。

(4) 病院将来構想の検討

毎年12月に実施している幹部・リーダー研修会は次年度事業計画策定のための位置づけであるが、2021年度研修会では病院の将来構想について議論した。2022年度に入り、支部で第2次みすみ病院将来構想検討プロジェクトを再開する。

7. 2022年度事業計画

《基本方針》

地域とのつながり、人と人とのつながりを大切にし、ニューノーマルな時代に踏み出そう

《Keyword》

つなぐ

《全体目標》

- ・病床利用率 90%以上
- ・業務改善各部署1つ以上
- ・病院機能評価の更新

《重点取組》

- ・DX、改善活動を推進し、ニューノーマルな時代に対応する。
- ・安心安全な医療の提供・組織運営に向け、病院機能評価を更新する。
- ・経営を安定させるために病床利用率90%以上を維持する。
- ・働きやすい職場環境、学習環境を整備する。
- ・危機管理（災害・感染対応等）に関する業務を強化する。
- ・開院20周年を節目に、病院将来構想の再検討を行う。